

積水化学グループの軌跡

積水化学グループの軌跡

積水化学グループは1947年3月、プラスチックの総合事業化を目的として、創業しました。その後、わが国初のプラスチック自動射出成形事業を開始するなど、プラスチックに関連する技術、製品を中心にそれまでにない事業に積極的に進出し、着実に事業を拡大してきました。今日の主力製品のひとつである自動車向けの中間膜もその原点は1958年であるなど、長い歴史の中で育成した事業が花開くケースが多いのもグループの特徴です。



1 1947年

プラスチックの総合事業化を目的とし、積水産業株式会社として発足



4 1958年

合わせガラス用中間膜「S-LECフィルム」の製造を開始



7 1982年

群馬工場を新設、塩化ビニルパイプ、ユニット住宅外壁パネルの製造を開始



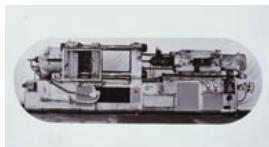
10 2011年

米国の医薬品会社 Genzyme Corporation から検査薬事業を買収し新会社を設立



2 1948年

わが国最初のプラスチック自動射出成形事業を開始



5 1960年

滋賀栗東工場開設。塩化ビニルパイプ、塩化ビニル建材製品の製造を開始



8 2001年

カンパニー制を導入



11 2012年

三菱樹脂株式会社の管材事業を譲り受ける



3 1952年

塩化ビニル管「エスロンパイプ」の本格製造開始



6 1971年

鉄骨系ユニット住宅「ハイム」の販売を開始、住宅事業に進出



9 2006年

第一化学薬品株式会社（現：積水メディカル株式会社、連結子会社）を買収



12 2013年

タイにユニット住宅量産工場を新設

